

政治劣化考

日本総研主席研究員 藻谷 浩介氏に聞く



藻谷浩介氏。64年山口県出身。東大卒。政府
復興構想会議検討部会委員を務めた。著書に「デフ
レイト」。

政治が機能しなくなった構造 要素生産性を高くすれば経済成長の必要要因を日本総研主席研究員 藻谷浩介氏に探ってもらった。

「経済や財政の問題に政治が対応できてない。」

「政治家にも経済人にも、現代のやり方はもう通じないのと同じことが原発でも起きていて、経営戦略の刷新を先送りになる。へたをすると1万年も冷や

「企業がひとことだと決め込み続ければ、日本人は際限なく縮小を続けかねない」

「消費増税を指す野田佳彦首相は多少、分かっているの

「そう期待するが、原発の拙速な再稼働を見て、戦略眼に疑いを感じた。消費増税も、国債

「日本人のメンタリティーを

「ファクト・ベースド・ポリシー、つまり事実がこうなっているからこういう政策をとるという姿勢が必要だ。過去のモデルが通用しなくなったという現実を国民に示し、ビジョンを創造し直す能力が必要だ」

「このままではギリシヤ化する。リーターがつまみ食いの選はれ次々に放り出されて...」

「ただ、原発事故の修繕場を体験した政治家には期待したい。日本が一瞬、滅亡寸前までいったのを見た経験者なら、行動してほしい」

「最後に政治家に必要な素養

人口減少社会へ対応を

「現場を歩けば気が付かないはずはないが、政策を議論する場に出ると安易な経済成長待望論に戻ってしまう。貨幣さえ入らまけば、あるいは技術革新で全

「政治も同じか。人口が減少しているところで税収不足を国債発行で補ってこれば破綻は明らかだ。バブル期の国収収入でも今の歳出は賅えない。景気が良くなれば何とかなるとい

「財政問題がそうだ。人口が減少しているところで税収不足を国債発行で補ってこれば破綻は明らかだ。バブル期の国収収入でも今の歳出は賅えない。景気が良くなれば何とかなるとい

「人口減少にどう対処すればいいの

「内政問題と思われているが、基本的には生物学的な事象だ。豊かになると出生率が落ち、増えすぎた人口が減るのはどの国でも起きる。誰かや何かを打倒すれば解決する問題ではない

「住民の3分の1が移民のシンガポールでも現役世代は減り始めている。移民でも日本の人口減少を止めることは不可能だ。問題は3、4割減少の後に横ばいに持ち込めるかだが、男女とも若いうちの子育てを最優先するとうちの社会で可能な

「技術革新で経済成長を起せば中間層が増えるという認識はプロセス不在で神風待望の呪文と同じだ。減りゆく現役世代

「優秀な女性はもちろんのこ

「最後に政治家には期待したい。日本が一瞬、滅亡寸前までいったのを見た経験者なら、行動してほしい」

「山の降り方」を提示

「人口増加時代の解決策は減少時代には通じない。一貫する藻谷氏の主張を支えるは事実に基づいて解決策を模索する「ファクト・ベースド・ポリシー」だとい

「国の市町村をくまなく歩き回るミクロ調査を積み重ねた上でマクロを考える。の足と目、耳で調べ、分析した藻谷氏論が「人口減少を止める」から「減少を止めることは不可能」への思考の転換だ

「これは、あくまで成長を追い求めたり、減少の影響を過小評価したりする「マ経済学一般論」からの離脱を意味す、藻谷氏はわれわれ国民の「錯覚」も指摘する。

「の一つが「競争に勝った男性だけを登してあげて、という考え。これがの間にか「一定数を切り捨てればよい」解され「半分を駄目にしてしまう」シムに陥るとして「全員育てる」シムの転換を促した。

「家の五木寛之氏は昨年、高度経済成長徴される頂点を極めた日本にとって大のは、再びどう山に登るか、ではなく山を下りるかだ、と説く「下山の思想」した。

「谷氏は、「人口」という「山」の降り具体策を提示しているように見える。に富む「下山の『思考』」である。

(共同通信編集委員 柿崎明二)

11月1日掲載